

「水環境の保全」に係る有識者へのヒアリング結果について

1 実施日

平成 29 年 8 月 1 日～8 月 4 日

2 概要（敬称略）

■信州大学工学部水環境・土木工学科 教授 中屋 眞司

- ・前計画（第 5 次計画）には、水環境に関する内容がほぼ網羅されていると思われる。
- ・行政の計画は文章が多く一般県民向けには分かりにくい。長野県は上流県、水源に近い県ということ認識し、県民に関心を持ってもらうため、例えば、誰もが分かりやすく見やすいよう計画全体のイメージ図を作成したらどうか。
- ・長野県は夏と冬では水量に大きな差がある。夏は降水量が多く、冬は少ない。利活用に関して、この点を記載してもよいのではないか。
- ・地球温暖化により降水と渇水の変動が大きくなってきている。こうした視点も盛り込めば、市町村も対応を考えるようになるのでは。
- ・長野県は地質的に、降雨が浸透性せず表流水となる地域と降雨がそのまま地下に浸透する地域の 2 つの大きな地域がある。地質の特性に合わせた涵養の視点も必要ではないか。
- ・安曇野市水環境保全計画策定の際は、地下水のメカニズムなど、できるだけデータを示すようにした。科学的根拠を示しながら涵養方法等が提示できれば納得感のある計画になる。
- ・例えば、熊本県がユネスコの世界遺産登録を目指しているようなシンボリックな取組を計画に盛り込めば、県民にも計画が伝わりやすくなるのではないか。

■特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議 代表理事 福澤 浩

- ・水環境保全への関心は、H 9 年に河川法の改正があったころは高かったが、今は低迷してきている。水環境の保全よりも、各地で河川災害が発生していることから、治水利水を含め防災への意識のほうが高まっている。
- ・外来種の問題が深刻化している。天竜川では、築（やな）をかけると鮎ではなく、ブラックバスとブルーギルが多くかかる。
- ・全国水環境交流会という団体が毎年 7 月 7 日を「川の日」としている。海の日、山の日が先行したが祝日にできたらよい。
- ・今の若者は環境に対する意識が高い。環境学習や環境イベントは、工夫すればちゃんと人は集まる（ドローンなど）。
- ・環境系 NPO 法人は、中心となる人が高齢化しており、引き継ぐ人材がいない。

■国立環境研究所社会環境システム研究センター 主席研究員 青柳 みどり

- ・最近の水環境の変化としては、地球温暖化による降雨の増大、少雨の傾向が極端になってきている。治水、防災など適応の視点が必要では。
- ・全体として、「観光資源」としての記述がないので入れたらどうか。
- ・環境教育、環境学習の推進に関し、総合学習等の教材作成支援を通じての水環境学習の推進（副読本の提供、資料作成に使用可能な図表等の素材のウェブ上へのアップロードによる提供など）を追記したらどうか。
- ・「脱炭素社会の構築」などは、ICLEI（持続可能をめざす自治体協議会）や「環境自治体会議」の取組も参考になるのではないか。